



株式会社 良品計画  
Ryohin Keikaku Co.,Ltd.(MUJI)

2019  
Communication on Progress

対象期間:2018年9月~2019年9月

当社は、国連の提唱する人権、労働、環境及び腐敗防止に関する普遍的原則を進める『国連グローバル・コンパクト』に、2013年9月から参加しています。社内・外における積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2019年9月12日

代表取締役社長

松崎 亮

内容について詳しくは、当社ホームページ内「100の良いこと」(<https://ryohin-keikaku.jp/csr/list/>)に記載をしております。

人権分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p>Cafe&amp;Meal MUJIで寄付金付きメニューの提供 世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWOプログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIに導入。対象商品にプラス20円を追加してお支払いいただく事で、その20円が「TABLE FOR TWO」を通じて開発途上国の学校給食一食分に生まれ変わります。</p> <p>TABLE FOR TWO プログラムとは、私たちが社員食堂や店舗などで、TFT対象となるカロリーを抑えたヘルシーメニューを購入すると、代金に含まれる20円が寄付金となる仕組みです。対象となるヘルシーな食事を摂ることで参加者の健康管理につながるのと同時に、寄付によってアフリカの子供たちに温かい給食が届けられるという、双方にメリットのある取り組みです。</p> <p>TABLE FOR TWO の取り組みについて： <a href="https://cafemeal.muji.com/jp/table-for-two/">https://cafemeal.muji.com/jp/table-for-two/</a></p>	<p>世界の食料問題の解決に取り組む、日本発の特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「TABLE FOR TWOプログラム」を、国内のCafe&amp;Meal MUJIに導入しています。2018年3月から2019年2月までで15,200食を販売しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

労働に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p>キルギスでの商品開発プロジェクト 独立行政法人国際協力機構(Japan International Cooperation Agency、以下JICA)が発展途上国で支援している一村一品運動に賛同し、JICAとの共同企画商品を展開しています。キルギスのフェルトを使った商品のように、地域の特産物を活かした住民による地域活性化を目指した取り組みです。</p>	<p>これまではXmas時期のギフト商材としての商品開発を行っていましたが、2013年度からは「年間定番として販売できる企画」にレベルアップさせるため、商品デザインの変更に取り組んでいます。2018年度は、スリッパやバッグなどを製品化し、発注金額は約1,355万円、日本国内だけでなくヨーロッパやアメリカ、中国の無印良品の店舗で販売しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>障がい者雇用 障がい者雇用の推進に努め、2010年10月、社団法人東京都雇用開発協会から、障がい者雇用促進優良企業として表彰を受けました。</p>	<p>2009年からスタートしたハートフルプロジェクトは販売部と連動して店舗数および障がい者数の拡大を継続しています。2009年に1.44%だった雇用率は、2019年2月現在で4.50%となり、352名の方が店舗や本部で「働く仲間」として活躍しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>ラオスの村とのマイバッグの開発 2011年から「布製マイバッグ」はラオスにある縫製工場で作っています。この工場は、縫製技術の高さはもちろんのこと、ラオスでの雇用創出に繋がる活動に積極的に取り組んでいることへの共感から、この工場を選択しています。これからも安定的な生産数を保ちながら、従業員の雇用を守ることに繋がる活動に協力をしていきます。</p>	<p>2018年度は、ラオスで生産するマイバッグを約80万枚発注しました。無印良品でのお買い物の際には、お持ち帰り用のマイバッグ持参の協力をお客様にお願いしています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

環境に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p>素材、工程の点検 再生素材、捨てられるもの、残反・残糸など、資源をムダにしない素材を採用しています。</p>	<p>例えば、無印良品のシャツ・Tシャツを作る生産工程で出た端切れを人の手で仕分け、粉碎してワタ状に戻し、未使用の綿と混ぜて再び紡績をし、「再生コットン」として使用しています。「資源をムダにしない」という、無印良品誕生当時からの方針を大切に、服の生地を裁断する際に発生した端切れを再生して製品化する取り組みです。2018年度は、ホームウェアや靴下、Tシャツなどを商品化しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p>包装の簡略化 できるだけ包装をしない販売を目指します。包装が必要な場合も最小限の包装となる努力をします。</p>	<p>衣服・雑貨では納品形態の個包装を廃止し、環境負荷軽減を目指しています。食品では包装を簡略化しているレトルト食品の売上が大幅伸長しました。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

環境に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p><b>繊維製品のリサイクル</b> 2010年からスタートしたBRINGプロジェクトは、繊維製品をバイオエタノールとして再生する新しい技術を中心に、衣料品の100%リサイクルをめざし発足した企業連携のプロジェクトです。</p>	<p>BRINGプロジェクトは継続して取り組んでおり、2018年4月～2019年3月で約24.2トンの繊維製品の回収をいたしました。2015年3月からは、プロジェクトで回収した衣料のうち、まだ着ることのできるものを染め直して再度販売する「ReMUJI」を実施、2015年9月からは、流通の過程で販売することのできなくなったものについても対象としました。全国の無印良品6店舗で、2018年9月から2019年8月までに約4,000枚を販売しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>
<p><b>プラスチック素材の使用削減</b> 人と自然とのより良い関係を考える無印良品は、プラスチック素材の使用削減に、さまざまな方法で取り組んでいます。2019年春夏企画の商品から、商品の販売に使用しているプラスチック素材の副資材を削減、もしくは紙製に変更しています。</p>	<p>2019年春夏では、靴下やストール等のフックやハンガーを、再生紙の仕様にしていきます。フレグランスアイテムやトイレブラシ等の外箱も、紙製への切り替えをすすめています。また、2019年4月にオープンした世界旗艦店「無印良品 銀座」では、プラスチック製ショッピングバッグの配布をせず、ご自身のバッグをお持ちいただいた方に自社アプリのMUJIpassportマイルを付与するなど、買い物バッグ持参を推奨しています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

腐敗防止に関する活動報告

本年度の活動目標・内容	結果・評価	来年度の活動目標
<p><b>お取引先様とのパートナーシップ</b> 製造委託取引先様には、良品計画の企業行動を理解し、継続して実践していただくために、「良品計画の環境・労働・安全マネジメント」を製造委託契約書に包含しています。実施の確認は、全社に対して毎年1回、アンケート形式で行い、結果は同じく全社が集まる「取引先集会」の場で報告し、実態の共有をしています。</p>	<p>2018年6月に、当社およびグループ会社の役員・従業員による贈賄を未然に防止するために、贈賄防止規定を制定し、取締役会で決議しました。当規定は、各販社の取締役会でも承認され、販社の社員が遵守すべき規定となっています。</p>	<p>引き続き活動を実施します。</p>

その他の活動報告

- ・鴨川里山トラスト 高齢化に伴い維持管理が困難になっていた棚田の保全のために、WEB上で参加者を募り、田植え・草取り・稲刈りなどの農業体験イベントを行っています。
- ・キャンプ場の運営 良品計画が運営する3つのキャンプ場(新潟県津南町、岐阜県高山市、群馬県嬬恋村)では、合計約70万坪のキャンプ場周辺の森林を管理しています。地域の方に講師として参加していただくアウトドア教室の開催や子供たちを対象としたキッズサマーキャンプの開催を通して、利用者へ自然への理解を深めてもらうための活動を行っています。

このCommunication on Progress の報告内容をどのようにステークホルダーに伝えますか。

グローバル・コンパクトのウェブサイトに掲載する。

以上